

ウィーン国立歌劇場、次期音楽監督就任！
来日迫る、10年ぶり待望の日本公演！

フィリップ・ジョルダン

初演150周年記念、パリ・オペラ座《ドン・カルロス》で真骨頂を発揮！
波に乗るジョルダン、最高峰への道

パリ・オペラ座の音楽監督は至難のポストだ。バスチーユの新オペラ座が開場して数年間はジョン・ミヨンフンが音楽監督を務めたが、1994年以来ほぼ不在の状態が続いた。それに終止符を打ち、2009年以来10年近く音楽監督の座にあって、パリ・オペラ座の水準を大幅に上げた立役者、それが、フィリップ・ジョルダンである。昨今のパリでは、彼の指揮するオペラも、オペラ座管弦楽団を率いての演奏会も、満員御礼の状態が続いている。ベートーヴェンの交響曲全曲の演奏会も、大好評だったという



(同じプログラムはウィーン響との演奏会でも絶賛を博した)。

この10月、新制作された《ドン・カルロス》(フランス語初演版)を観たが、改めてオペラ指揮者ジョルダンの手腕に唸らされた。

オペラ座の依頼で作曲され、1867年に初演された《ドン・カルロス》は、当時のオペラ座のスタンダードな形式だった、5幕構成のフランス語による「グランド・オペラ」として作曲された。だがあまりにも長大で他国での上演には向かず、改訂が繰り返された。現在のスタンダードは、初演から17年後に成立したイタリア語の4幕版である。パリ初演版の上演はきわめてまれで、しかも今回は、初演直前にカットされた部分も演奏したので(ただし「ドラマと関係のない」(ジョルダンの言葉)バレエ音楽はカット)、「世界初演」のヴァージョンだったはずだ。

正味4時間以上の長丁場。だが次々と立ち現れる音楽の新鮮さに惹きつけられ、退屈とは無縁の公演となった。カウフマン、テジエ、ガランチャ、アブドラザコフら、今をときめく歌手たちもそれぞれ力を発揮したが、何と云っても功績の第一は、ジョルダンの

音楽作りにある。フランス語初演版の《ドン・カルロス》は、ふだん聴き慣れているイタリア語4幕版の《ドン・カルロス》とは、まったく違う作品だったのだ！典雅なフランス語の響きを生かした綿密な心理描写と、フランスのグランド・オペラから受け継いだ、息の長い、たっぷりした旋律。いずれも、切り詰められ、より劇的なイタリア語版にはないものだ。ジョルダンは、その魅力を十二分に引き出した。よく歌い、流麗で、緻密なオーケストラは、ドラマにいていねいに寄り添い、人物の心を客席にくまなく伝えてくれた。孤独な権力者フィリップ(フェリペ)2世の心の闇が、あれほど感動的に表現された《ドン・カルロス》を筆者は知らない。ドイツ、イタリアオペラのみならず、ベルリオーズなどフランスのグランド・オペラにも積極的なジョルダンだからこそ可能になった名演だったと思う。

波に乗るジョルダンが、オーケストラ指揮者としてタッグを組み、やはりその水準の上昇が評判になっているウィーン響。両者が今、一番得意とするドイツ・ロマン派の真髄を、じっくりと味わっていただきたい。

<CD>

フィリップ・ジョルダンとパリ・オペラ座管弦楽団の『展覧会の絵』発売中!

Mussorgsky: Pictures at an Exhibition,
Prokofiev: Symphonie No.1/
ムソルグスキー／ラヴェル編・組曲『展覧会の絵』、
プロコフィエフ：「古典交響曲」(SACDハイブリッド)
¥3,000+税 / WPCS-13658



パリ国立オペラ座の音楽監督としての活躍で大きな評価を受け、「ダフニスとクロエ」は2015年度のレコード・アカデミー賞「管弦楽部門」を獲得しているフィリップ・ジョルダンの最新録音。オペラ座のオーケストラの能力を完全に引き出した傑作「展覧会の絵」。

『展覧会の絵』はムソルグスキーが、友人であったヴィクトル・ハルトマン(ガルトマンとも)の遺作展を歩きながら、そこで見た10枚の絵の印象を音楽に仕立てたもの。原曲はピアノ演奏で、1922年、フランスのラヴェルが、指揮者ケーゼヴィツキーの依頼で『展覧会の絵』を管弦楽へと編曲、原曲のロシア的な要素を重視するよりもオーケストラ作品としての華やかな色彩を与えることを企図し成功しており、人気作品となっている。

『古典交響曲』は、プロコフィエフが音楽院在学中にニコライ・チェレプニンの教室で研究したハイドンの技法をもとに、「もしもハイドンが今でも生きていたら書いたであろう作品」として作曲したので、「古典交響曲」と名付けた。モダンな作風で知られていたプロコフィエフが、この曲で一転して軽快で解り易く美しい作風を示したことは周囲を驚かせた。

<映画>

フィリップ・ジョルダンも登場!

新世紀 パリ・オペラ座 The Paris Opera

12月9日(土)

Bunkamura ル・シネマ他にて全国順次ロードショー
フランスで、オペラ座ドキュメンタリー映画史上No.1
記録樹立の話題作、日本公開決定!



出演:
<オペラ座総裁>
ステファン・リスナー
<バレエ芸術監督>
バンジャマン・ミルビエ、オレリー・デュボン
<音楽監督>
フィリップ・ジョルダン
<オペラ演出>
ロメオ・カステルッチ
<オペラ歌手>
プリン・ターフェル、ヨナス・カウフマン、
オルガ・ペレチャッコ、他

gaga.ne.jp/parisopera

© 2017 LFP-Les Films Pelleas - Bande a part Films - France 2 Cinema - Opera national de Paris - Orange Studio - RTS. is the copyright of the film

フィリップ・ジョルダン指揮 ウィーン交響楽団

2017年12月1日(金)

◇メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲
ホ短調 作品64 榎本大進(ヴァイオリン)

19:00(18:30開場)

◇マーラー：交響曲 第1番「巨人」ニ長調

S ¥22,000 僅少 A 売切 B 売切 C 売切 D 売切 夢倶楽部会員料金 S ¥21,000 僅少 A 売切 B 売切 C 売切 D 売切

2017年12月3日(日)

◇ベートーヴェン：交響曲 第5番「運命」ハ短調 作品67

14:00(13:30開場)

◇ブラームス：交響曲 第1番 ハ短調 作品68

S ¥20,000 僅少 A 売切 B 売切 C 売切 D 売切 夢倶楽部会員料金 S ¥19,000 僅少 A 売切 B 売切 C 売切 D 売切



© Keita Osada

サントリーホール

主催：ジャパン・アーツ
後援：オーストリア大使館 / オーストリア文化フォーラム / オーストリア政府観光局 / スイス大使館
協力：ワーナーミュージック・ジャパン

2017年11月26日(日)

◇ベートーヴェン：交響曲 第5番「運命」ハ短調 作品67

15:00(14:20開場)

◇マーラー：交響曲 第1番「巨人」ニ長調

S ¥18,000 A ¥15,000 B ¥11,000 C 売切

横浜みなとみらいホール

主催：(公財)横浜市芸術文化振興財団

※料金には消費税8%が含まれております。

2017年日本公演スケジュール ★榎本大進出演

11月27日(月) アクロス福岡	(問)アクロス福岡チケットセンター TEL.092-725-9112 ★
11月28日(火) 名古屋市民会館	(問)中京テレビ事業 TEL.052-588-4477
11月29日(水) ハーモニーホールふくい	(問)TEL.0776-38-8288 ★
12月2日(土) 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール	(問)芸術文化センターチケットオフィス TEL.0798-68-0255 ★

ジャパン・アーツぴあ (03)5774-3040 www.japanarts.co.jp/
横浜みなとみらいホールチケットセンター (045)682-2000 (横浜公演)